

## 金賞

水はずつと回っている!!

井上 実優

小郡市立大原小学校

わたしは社会科見学で、「宝満川浄化センター」に見学に行きました。そこで、水の行方について知り、とてもおどろいて感心しました。

おどろいたことの一つは、水はじゅんかんしている、という事です。例えば、トイレや台所などで水を使うと、よごれた水になります。その水を「汚水」というそうです。汚水は公共汚水ますという施設に流れます。下水管を通りながら沈砂池で大きなゴミなどをしずめてとりのぞきます。その後、最初沈でん池でゆるやかに汚水を流して小さなどろをしずめます。そして、反応タンクを通って最終沈でん池という施設で大きなかたまりになったどろをしずめて、上ずみを流します。最後に水質検査をして消毒したら、放流口できれいな水を流す、という水の長い長い旅で、わたしは水がじゅんかんしていることを初めて知り、

「長い旅を終えて、水が出てきてるんだ。」とっておどろきました。

二つ目は、目に見えないような役に立つ生物がいるという事です。そのび生物はその名も「活性汚泥」です。下水にとけたよごれをすいこみながら食べるという役目を果たしています。ずっとそれをくり返しながらかき混ぜるという役目もつとふえていくそうです。そして、水はきれいになるのです。けれど、へっていく事もあります。よく料理

などで使う油や野菜のくずをそのままは水口に流し入れると、大事な役目を果たしてもらっている活性汚泥が次々に死んでいってしまい、減っていつてしまいます。それを防ぐために私達にできる事は油や野菜のくずなどを、「ちよつとだけだからいいや。」と思わないで、その水が浄化センターに行くこと、そしてまた返ってくるということを考えて流すことだと思いました。

わたしは、宝満川浄化センターで働いている人達は、自分でも「いい仕事をしているなあ。」と思っていると感心しました。また、こんなに浄化センターでは汚水から、きれいな水になるまでに、小さなび生物の活性汚泥も協力しているように思えて、感心しました。

だから、あらためてわたし達もその一員とって協力し合い、ごみなどをかんとんに川や池や海に捨てない、ということを実行し続けていって、小郡市を住みやすく、かんきょうが整っている市にしたいです。